

神経疾患患者における 胃管自己抜去インシデントの発生要因

◆研究の目的と概要◆

この研究は、神経疾患患者の胃管自己抜去の要因について調べています。本研究では胃管を挿入した患者の自己抜去の詳細から要因を明らかにし、今後の自己抜去防止の方法の検討に生かすことを目的に行うものです。

◆対象となる患者さん◆

2021年4月から、2024年3月までの間に、3棟6階に神経疾患で入院され予定外のタイミングで胃管が抜けた方です。

◆研究に使用される情報・試料◆

電子カルテおよびインシデントレポートより、疾患・抜去時の意識レベル・抜去時のMMT（麻痺）・年齢・性別・認知症の有無・入院時記録から認知機能の低下についての記載の有無、内服（抗精神薬、抗不安薬、抗てんかん薬、催眠鎮静剤）、自己抜去時の状況：胃管の太さ・胃管挿入から自己抜去までの日数・入院期間・時間帯・ミトンやリムホルダーの使用の有無・胃管の固定方法（フィクソムルストレッチのみ・フィクソムルストレッチ+テガダーム、その他の補強）自己抜去の回数、胃管を触っているかどうかの項目の情報を収集します。

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
神経内科 研究責任者 崎谷 真由美

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明